

2025～2024 年度入学生

造形研究科修士課程／単位表

〈美術専攻〉

日本画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	日本画研究Ⅰ	8	日本画研究Ⅲ	8
		日本画研究Ⅱ	4		

油絵コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	絵画研究Ⅰ	8	絵画研究Ⅲ	8
		絵画研究Ⅱ	4		

版画コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	版画研究Ⅰ	8	版画研究Ⅲ	8
		版画研究Ⅱ	4		

彫刻コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	彫刻研究Ⅰ	8	彫刻研究Ⅲ	8
		彫刻研究Ⅱ	4		

美学美術史コース ※造形学演習Ⅰは2025年度開講しない。

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	造形学演習Ⅰ	6	造形学演習Ⅱ	6
	選択必修	東洋美術史研究	2	8	
		東洋美術史演習	2		
		西洋美術史研究	2		
		工芸史演習	2		
		デザイン史研究	2		
		美学芸術学研究	2		
		近現代美術史演習	2		
		現代建築論	2		

芸術文化政策コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	芸術文化政策特論Ⅰ	4	芸術文化政策特論Ⅱ	4
		芸術文化政策演習Ⅰ	6	芸術文化政策演習Ⅱ	6

芸術文化学コース（2025 年度入学生）

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	芸術文化学特論Ⅰ	4	芸術文化学特論Ⅱ	4
		芸術文化学演習Ⅰ	6	芸術文化学演習Ⅱ	6

〈デザイン専攻〉

視覚伝達デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	視覚情報論Ⅰ	4	視覚情報論Ⅱ	4
		視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6

工芸工業デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4
		プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6

空間演出デザインコース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	空間演出デザイン特論Ⅰ	4	空間演出デザイン特論Ⅱ	4
		空間演出デザイン演習Ⅰ	6	空間演出デザイン演習Ⅱ	6

建築コース ※建築計画特論、建築構法特論は2025年度開講しない。

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	建築デザイン特論Ⅰ a	2	建築デザイン特論Ⅱ a	2
		建築デザイン特論Ⅰ b	2	建築デザイン特論Ⅱ b	2
	選択必修	建築設計演習Ⅰ a	2	建築設計演習Ⅱ	4
		建築設計演習Ⅰ b	2	建築設計実習Ⅱ	4
		建築設計実習Ⅰ	4	建築デザイン演習Ⅱ	4
専門Ⅱ類	選択	建築設計演習Ⅰ	4	建築設計演習Ⅲ	4
				建築設計実習Ⅲ	4
				建築デザイン演習Ⅲ	4
		建築設計インターンシップⅠ	4	建築設計特論	2
		建築設計インターンシップⅡ	4	建築構法特論※	2
		建築設計インターンシップⅢ	4	建築設備特論	2
				建築計画特論※	2

基礎デザイン学コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン論特論Ⅰ	4	デザイン論特論Ⅱ	4
		デザイン理論演習Ⅰ	6	デザイン理論演習Ⅱ	6

デザイン情報学コース

学 年		1		2	
科目区分		科目名	単位	科目名	単位
専門Ⅰ類	必修	デザイン情報学特論Ⅰ A	2	デザイン情報学特論Ⅱ A	2
		デザイン情報学特論Ⅰ B	2	デザイン情報学特論Ⅱ B	2
		デザイン情報学統合演習Ⅰ	6	デザイン情報学統合演習Ⅱ	6

授業科目・担当教員一覧

- ※印科目については、当該コースの必修科目ですが、他のコースの学生も共通科目として履修することができます。
- 単位の数字に（ ）がついているものは選択科目です。

美術専攻				
コース	授業科目	単位数	担当教員	
日本画 コース	日本画研究Ⅰ	8	間島秀徳	教授
	日本画研究Ⅱ	4	尾長良範	教授
	日本画研究Ⅲ	8	岩田壮平	教授
			室井佳世	教授
			熊澤未来子	准教授
			北澤恵昭	客員教授
			日高理恵子	客員教授
			國司華子	客員教授
			栗林 隆	客員教授
			因幡都頼	講師
			木村真光	講師
			木村了子	講師
			小金沢 智	講師
			椎野晃史	講師
			武田裕子	講師
			谷保玲奈	講師
油絵 コース	絵画研究Ⅰ	8	赤塚祐二	教授
	絵画研究Ⅱ	4	樺山祐和	教授
	絵画研究Ⅲ	8	小尾 修	教授
			小林孝亘	教授
			袴田京太朗	教授
			丸山直文	教授
			水上泰財	教授
			諏訪 敦	教授
			吉川民仁	教授
			町田久美	教授
			小林耕平	教授
			金田実生	客員教授
			長島有里枝	客員教授
			津上みゆき	客員教授
			土方明司	客員教授
			大川心平	講師
版画 コース	版画研究Ⅰ	8	神村 恵	講師
	版画研究Ⅱ	4	衣川明子	講師
	版画研究Ⅲ	8	後藤温子	講師
			坂本龍幸	講師
			高橋大輔	講師
			竹内奏絵	講師
			竹内 一	講師
			徳永陶子	講師
			中尾直貴	講師
			松井えり菜	講師
			松尾勘太	講師
			横原泰介	講師
			森 千裕	講師
			渡辺えつこ	講師
			遠藤竜太	教授
			高浜利也	教授
彫刻 コース	彫刻研究Ⅰ	8	元田久治	教授
	彫刻研究Ⅱ	4	いとう瞳	教授
	彫刻研究Ⅲ	8	緒賀岳志	客員教授
			亀山達矢	客員教授
			伊藤 誠	教授
			富井大裕	教授
			保井智貴	教授
			三沢厚彦	教授
			岡崎乾二郎	客員教授
			AKI INOMATA	客員教授
			棚田康司	客員教授
			奥 健夫	教授
			木田拓也	教授
			北澤洋子	教授
			玉蟲敏子	教授
			前田恭二	教授
美学美術史 コース			村上博哉	教授
			沢山 遼	准教授
			岡山理香	講師
			田中正之	客員教授
			松原 茂	客員教授
			明珍素也	客員教授
	※西洋美術史研究	(2)		
	※東洋美術史研究	(2)		
	※東洋美術史演習	(2)		
	※近現代美術史演習	(2)		
	※工芸史演習	(2)		
	※デザイン史研究	(2)		
	※現代建築論	(2)		
	※美学芸術学研究	(2)		
	造形学演習Ⅰ	6		
	造形学演習Ⅱ	6		
芸術文化政策 コース	芸術文化政策特論Ⅰ	4	古賀稔章	准教授
	芸術文化政策演習Ⅰ	6	是枝 開	教授
	芸術文化政策特論Ⅱ	4	佐々木一晋	准教授
	芸術文化政策演習Ⅱ	6	杉浦幸子	教授
			春原史寛	教授
			米徳信一	教授
			竹内草子	講師
			本間桃世	講師
			松浦 昇	講師
			森 啓輔	講師
	芸術文化学特論Ⅰ	4		
	芸術文化学演習Ⅰ	6		
	芸術文化学特論Ⅱ	4		
	芸術文化学演習Ⅱ	6		
芸術文化学 コース				

*造形学演習Ⅰは2025年度開講しない。

デザイン専攻				
コース	授業科目	単位数	担当教員	
視覚伝達 デザイン コース	※視覚情報論Ⅰ	4	寺山祐策	教授
	※視覚伝達デザイン演習Ⅰ	6	キュー・ジュリヤ	教授
	視覚情報論Ⅱ	4	齋藤啓子	教授
	視覚伝達デザイン演習Ⅱ	6	白井敬尚	教授
			古堅真彦	教授
工芸工業 デザイン コース			石塚英樹	教授
			中野豪雄	教授
			北崎允子	教授
			後藤映則	准教授
			大田暁雄	准教授
			沢田耕一	教授
			堀口裕美	講師
			北條みぎわ	講師
	※プロダクトデザイン特論Ⅰ	4	伊藤真一	教授
	プロダクトデザイン演習Ⅰ	6	稲田真一	教授
	プロダクトデザイン特論Ⅱ	4	大村俊二	教授
	プロダクトデザイン演習Ⅱ	6	鈴木 洋	教授
			高橋理子	教授
			田中桂太	教授
			中原俊三郎	教授
			西川 聡	教授
空間演出 デザイン コース			山中一宏	教授
			熊野 亘	准教授
	※空間演出デザイン特論Ⅰ	4	津村耕佑	教授
	空間演出デザイン演習Ⅰ	6	太田雅公	教授
	空間演出デザイン特論Ⅱ	4	池田ともゆき	教授
	空間演出デザイン演習Ⅱ	6	五十嵐久枝	教授
			片山正通	教授
			鈴木康広	教授
			パトリック・ライアン	教授
			安藤北斗	准教授
			北川陽史	准教授
建築 コース	建築設計インターンシップⅠ	(4)	小西泰孝	教授
	建築設計インターンシップⅡ	(4)	國廣純子	教授
	建築設計インターンシップⅢ	(4)	高橋晶子	教授
	建築設計実習Ⅰ	(4)	布施 茂	教授
	建築設計実習Ⅱ	(4)	菊地 宏	教授
	建築設計実習Ⅲ	(4)	持田正憲	教授
	建築デザイン演習Ⅰ	(4)	長谷川浩己	教授
	建築デザイン演習Ⅱ	(4)	小松宏誠	准教授
	建築デザイン演習Ⅲ	(4)	比嘉武彦	客員教授
	建築設計演習Ⅰa	(2)	大島芳彦	客員教授
	建築設計演習Ⅰb	(2)	川村政治	講師
	建築設計演習Ⅱ	(4)	河野有梧	講師
	建築設計演習Ⅲ	(4)		
	建築デザイン特論Ⅰa	2		
	建築デザイン特論Ⅰb	2		
	建築デザイン特論Ⅱa	2		
	建築デザイン特論Ⅱb	2		
	建築計画特論	(2)		
	建築設備特論	(2)		
	建築設計特論	(2)		
	建築構法特論	(2)		

*建築計画特論、建築構法特論は2025年度開講しない。

デザイン専攻

コース	授業科目	単位数	担当教員
基礎 デザイン学 コース	※デザイン論特論Ⅰ	4	原 研哉 教授
	デザイン理論演習Ⅰ	6	板東孝明 教授
	デザイン論特論Ⅱ	4	小林昭世 教授
	デザイン理論演習Ⅱ	6	三澤 遥 准教授 菱川勢一 教授 後藤 武 講師 田中良治 教授 清水恒平 教授 畑 一成 講師
デザイン 情報学コース	※デザイン情報学特論Ⅰ A	2	白石 学 教授
	※デザイン情報学特論Ⅰ B	2	佐藤淳一 教授
	デザイン情報学特論Ⅱ A	2	高山 穰 教授
	デザイン情報学特論Ⅱ B	2	新保韻香 教授
	デザイン情報学統合演習Ⅰ	6	井上尚司 准教授
	デザイン情報学統合演習Ⅱ	6	大石啓明 准教授 瀧本往人 講師 Jag Yamamoto 講師

共通科目

	授業科目	単位数
各コース 共通科目	造形民俗学研究	(4)
	西洋美術史研究	(4)
	日本美術史研究	(4)
	東洋美術史演習	(4)
	現代芸術研究	(4)
	近現代美術史演習	(4)
	デザイン史研究	(4)
	工芸史演習	(4)
	現代建築論	(4)
	東洋美術史研究	(4)
	美学芸術学研究	(4)
	日本近現代美術史研究	(4)
	ユング芸術心理学研究	(4)
	芸術情報処理研究	(4)
	環境生態学特論	(2)
	映像芸術論	(4)
	作家・作品研究	(4)
	美術教育研究	(4)
	教育学研究	(4)
	日本語Ⅰ	(2)
他コース 履修可能 科目	視覚情報論Ⅰ	(4)
	視覚伝達デザイン演習Ⅰ	(6)
	プロダクトデザイン特論Ⅰ	(4)
	空間演出デザイン特論Ⅰ	(4)
	デザイン論特論Ⅰ	(4)
	デザイン情報学特論Ⅰ A	(2)
	デザイン情報学特論Ⅰ B	(2)
	デザイン情報学特論Ⅱ A	(2)

○芸術情報処理研究、視覚情報論Ⅰ、視覚伝達デザイン演習Ⅰ、造形民俗学研究、ユング芸術心理学研究は2025年度開講しない。

美術専攻

日本画コース

理念・教育目標

造形学部では日本画の制作をとおして、造形や美術史、素材の研究などから表現を深めてきましたが、大学院ではより解放された視点から日本画を捉えなおして自己の表現に向き合います。

日本画という言葉自体、絵画と国という概念を含んでいることから文化的な拠り所を意識することに繋がりますが、従来の日本画の価値観を受けとめるだけではなく、日本とは日本画とは何かを考えることや、グローバルな視点に立って現代の芸術として意識し、制作することが重要になってきます。

大学院では、何を考えて造るのか？ どう表現するのか？を問い、発表することの意味などに向き合います。それらの問いを論理的に進めることで表現への意識を深めることができるように考えています。

カリキュラムは各自の自主性をもとに行うことになりますが、展示ゼミや各種の伝統技法に対応したゼミなどを希望に応じて受けることができます。展示ゼミや様々な展覧会、個展などで発表の機会を重ねることで、客観的に自分の作品をみつめ、表現への意識を深めます。

表現に対する「思考」と、制作と発表という「実践」を重ねて社会との関わりの中かで表現者として活動して行くのに必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

大学院ゼミでは、各指導教員によるゼミが定期的開催され、アトリエでの制作指導以外に、研究発表、フィールドワーク、テーマ別ディスカッション等を行います。

アドミッション・ポリシー

日本画をとおして造形や美術史、素材の研究を行い、自主的に表現の可能性を追求したいという強い意欲を持つ学生を募ります。

カリキュラム・ポリシー

歴史や社会との関わりの中かで自己の表現を論理的に考えることで意識を深め、それに基づいた課題を設定し自主的に取り組みます。

表現への意識を深め、制作、発表を通して表現者として活動して行くために必要な専門性を得られるよう、全教員が個別に指導して行きます。

ディプロマ・ポリシー

本学科では日本独自の文化を背景に現代の多様な価値観の中かで思考し創造できる専門性を持った表現者の育成を目標としています。

学位が授与されるためには以下のことが求められます。

- 表現に対応した技術を持ち、それを十分に深めているか。
- 自己の表現について主体的に取り組み、論理的にプレゼンテーションできるか。
- 歴史や社会との関わりの中かで自己の表現の意味を考えているか。

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/8 30 28 29 夏季休業 7/24 8/8
1 年		日本画研究Ⅰ																
2 年		日本画研究Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31
4期				5期					6期				7期									
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35	
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13	
日本画研究Ⅰ									日本画研究Ⅱ													
修了制作									修了制作													

●祭典 10/24~10/26

油絵コース

理念・教育目標

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、充実した制作環境と指導体制における作品制作が最も重要です。そこから生み出される作品は視覚的な美しさを持つだけでなく、批評的強度を持ちうるものでなければなりません。さらに大学院修了後に作品制作のエキスパートとして活動していくためには、自作品における可能性や問題点を客観的にとらえ、実践していけることが重要です。それには実制作だけにとどまらず作品の構造を論理的にとらえ、美術史や社会状況をふまえた柔軟な思考による研究姿勢が望まれます。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、絵画を中心に、インスタレーション、映像などさまざまなジャンルの美術作家を養成することを主な目的としています。そのため入学者には作品に十分な内容と質を備えていることに加えて、知的好奇心を持ち、常に謙虚に学ぼうとする姿勢があり、作品制作、作品研究の双方に高い向上心を持って取り組めることが重要です。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは、学生の主体的で自由な制作を最大限に活かせるようにカリキュラムを編成しています。美術作家の養成を明確な目的とした本コースでは、在学中から学生という立場を超えて、ひとりの美術作家として自らの作品制作・研究を行う意識を養うことが最も重視されます。そのため大学院1年次では「絵画研究Ⅰ・Ⅱ」、2年次では「絵画研究Ⅲ」というように課題をシンプルに編成し、学生のさまざまな制作スタイルに柔軟に対応できるように配慮されています。そのなかで学生たちは、担当教員を中心にさまざまな教員や周りの学生たちとの対話のなかから作品制作の具体的な方向性を模索し、美術史や社会状況をふまえた深い思考による研究の機会を持ちます。またカリキュラムにかかわらず、活躍中の美術作家や美術批評家、学芸員などの外部からの特別講師などによる直接指導が随時行われ、学生の制作・研究をサポートしていきます。

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科美術専攻油絵コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- 主体的に作品制作に取り組み、美術作家として質の高い独自の表現を身につける。
- 絵画を中心とした美術史・美術理論に幅広い知識を有し、それをふまえた観点から作品制作者としてのみならず、批評性を有した作品鑑賞者としても柔軟に美術をとらえることができる。
- 自らの作品制作を通じて様々な社会状況と有機的な関わりを模索し、美術の世界だけにとどまらず、社会性を持った美術作家としての意識を持つ。

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 17								教育実習		オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/30 28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		絵画研究Ⅰ																
2 年		絵画研究Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期					6期			7期											
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18（鷹の台キャンパス）		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1（市ヶ谷キャンパス）	卒業式 3／13		
絵画研究Ⅰ									絵画研究Ⅱ														
修了制作									修了制作														

●祭典 10/24~10/26

版画コース

理念・教育目標

急速に浸透するデジタル印刷技術の革新や、多様化する現代美術表現の渦中にあって、版画表現においても単に技術、技法の習得にとどまらず、表現の本質を真摯に研究することが求められている。本学版画コースでは浮世絵などを代表とする日本独自の版画の根底にある文脈、すなわち『伝統』を理解し、継承する一方で、今生きている社会を見据えて発信する『現代』の清新な版表現の獲得を目指している。版画研究を通して時代を超えて存在する美術の本質を理解し、高度な専門性と豊かな教養を兼ね備えた表現者を育成し、文化の発展に寄与し社会に貢献することを目標とする。

アドミッション・ポリシー

版による表現に真正面から取り組み、作品によって社会に広く発信してゆく表現者を養成することを目指している。よって、版画に対する広範な知識を持ち、独自の表現を提示できる技術、技法を習得しながら作品概念を展開し、版画表現の可能性を追求することが可能な人材を求める。

- 独創的な研究制作テーマを自主的に設定し、版画表現を通して自己実現しながら、創造の本質を問うことができる。
- 作品概念を追い求めるだけでなく、また技術、技法のみに溺れることなく、両者を両立させながら、新たな版画表現の可能性を追求することができる。
- 個の創造領域では独創性を発揮しつつ、共有する工房空間の中では適度な社会性を保ちながら、表現者として研究制作を円滑に進め、作品によって社会に広く発信することが出来る。

カリキュラム・ポリシー

全体

与えられるのではなく、自ら問題提起しながら自主的に計画を立案し、それを起点により高度な専門領域の研究制作を進める。基本的には銅版・リトグラフ・木版・シルクスクリーンなどの主専攻とする版種の技術、技法による表現を中心に、必要に応じて版種をまたいだ制作や、他の複数メディア表現への展開も可能とする。

1 年次

主専攻とする各版種における、より高度な技術、技法を習得しながら作品概念を展開し、さらなる専門性を追求する。

2 年次

真摯に修了制作に取り組み、新たな版画の地平を切り拓くような、意欲溢れた高度な水準の作品制作を実践する。

ディプロマ・ポリシー

版画の持つ歴史的な積み重ねを重視しつつ、同時代の表現に柔軟に対応しながら新たな表現の地平を開拓し、社会に発信できる人材の育成を目標としています。そのため、学位を授与するためには以下のことを求めます。

- 自ら主体的に設定したテーマを基軸に研究制作に取り組み、美術作家として独創性に富んだ表現を獲得する。
- 版画表現、または版概念に基づく美術の歴史や理論全般を深く理解したうえで、自らの作品制作はもとより、批評者の視点でも社会に対して強く発信することが出来る。
- 作品制作における高度な創造性を獲得した上で、社会人として柔軟な視点で物事の状況を見極めながら、自らの知見や経験をもとに社会に対して貢献し、還元することが出来る。

版画コース

造形専門科目教育課程表

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2～9)	前期履修登録 4/4～17 前期授業開始 4/10								教育実習		オープンキャンパス 6/21・22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12・13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/17～23 前期授業終了 7/16		後期修正履修登録 8/30・28・29 夏季休業 7/24～8/8
1 年		版画研究Ⅰ (版種別専攻)																
2 年		版画研究Ⅲ (版種別専攻)																

●オリエンテーション週間 4/1～4/6

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月～3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31
4期				5期					6期			7期										
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35	
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13	
版画研究Ⅰ (版種別専攻)									版画研究Ⅱ (版種別専攻)													
修了制作 (版種別専攻)									修了制作 (版種別専攻)													

●祭典 10/24～10/26

修士課程

博士後期課程

彫刻コース

理念・教育目標

彫刻コースでは、制作の実践に加え、美術史的な側面や批評的な側面など、様々な角度から彫刻という領域を検証することにより、限りなく自由な表現の追求を目指します。「もの」を作り出すための様々な素材や技術について深く探究できる充実した環境（工房／アトリエ／授業体制）の中で、教員と学生が異なる専門性と方向性を持ち、影響し合うことから、新しい表現を追求し、社会に向けて発信をする場所です。様々な表現が交差する研究機関として、自立した表現者／研究者を目指す人材の集まる場所でありたいと考えています。

アドミッション・ポリシー

彫刻コースでは、彫刻／「もの」との関わりを出発点に各自のテーマを追求し、社会の幅広い分野において自立した表現／研究活動が続けることのできる人材の育成を目的としています。その為に、以下の様な学生を募ります。

- 追求すべきテーマを持ち、多方面からの批評と指導の中で研修を深化することのできる人。
- 彫刻における優れた表現技術を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 独自の表現方法を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。
- 彫刻の表現に批評的な視座を持ち、創造・研究活動を通して社会に関わろうとする人。

カリキュラム・ポリシー

彫刻コースでは、学生各自に対して学外での作品発表を含めた年間の制作計画の作成を求めます。その計画を前提に、【各自の専門性・独自性の追求を目的とした実技面】【作品を成り立たせている基盤を問う美術史的、批評的な観点の主眼とした理論面】の両面から指導を行います。具体的な授業内容は以下の通り。

- 「彫刻研究Ⅰ」「彫刻研究Ⅱ」
専任教員の継続的な指導に加え、客員教授、及び外部の批評家、研究者、キュレーター、作家によるゲスト講師と数回に渡るプレゼンテーション＋ディスカッションを行い、最終的に学外へ向けた展示を行う。
- 「彫刻研究Ⅲ」
専任教員の継続的な指導に加え、客員教授、及び外部の批評家、研究者、キュレーター、作家によるゲスト講師と数回に渡るプレゼンテーション＋ディスカッションを行う。また、本学内外の批評を専門とする学生＋ゲスト講師と協働で展示と記録集（批評集）の企画制作を行う。

ディプロマ・ポリシー

彫刻コースでは、カリキュラムを通じた研修過程と成果を踏まえ、以下の内容に該当する学生に修士の学位を授与し修了認定をします。

- 彫刻制作における優れた表現技術の探究と作品によるその実現性が認められる。
- 自身の作品制作をふまえた美術史、美術理論への幅広い知識と独創的な見解を有している。
- 独自の表現を理論的に展開している。
- 自立した美術作家として、主体的に社会と関わる意識、批評的視点を獲得している。

彫刻コース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 科目履修登録 4/4~17										オープンキャンパス 6/21~22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12~13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16~17/23		後期修正履修登録 8/30~28/29 夏季休業 7/24~8/30
1 年		彫刻研究Ⅰ																
2 年		彫刻研究Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期						6期				7期									
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18（鷹の台キャンパス）			卒業制作・修了制作展 1／30 2／1（市ヶ谷キャンパス）	卒業式 3／13	
彫刻研究Ⅱ									彫刻研究Ⅱ														
修了制作									修了制作														

●祭典 10/24~10/26

美学美術史コース

理念・教育目標

美学美術史コースでは、造形表現についての理論的な考察の方法と、美術作品の特質を歴史的観点から捉える方法を体系的に学びます。研究領域は洋の東西を問わず古代から現代まで、研究対象も絵画・彫刻・建築という古典的な美術の分野から、工芸、デザイン、現代の多様な表現形式による作品までを視野に収め、総合的な教育を行います。柔軟な知性と感性をもって美術作品に接し、作品の観察と解釈を基盤に据えた研究を行い、その成果を明晰な言葉で伝える力を養うことが、本コースの教育目標です。

アドミッション・ポリシー

美術作品を深く理解しようとする意欲と、自ら設定した問題を考える方法を真剣に学ぶ姿勢があり、研究を遂行するための主体性と行動力を持っている学生を受け入れます。また、各自の研究テーマに関連する外国語文献や漢籍などの資料を読むための基礎的な能力を持っていることが求められます。これらの条件に適っていれば、学部で美術史あるいは美学芸術学を専攻した学生に限らず、実技・制作を学んだ人たちの入学も歓迎します。

カリキュラム・ポリシー

本コースの理念・教育目標に従い、総合的かつ専門的な学修のためのカリキュラムを編成しています。

選択必修科目では、日本・東洋・西洋の美術史および美術理論を専門とする教員が、それぞれの専門領域に関する講義または演習を行います。学生はそれらの科目の履修を通じて、古今東西の造形芸術に関する幅広い知識を身につけるとともに、美学・美術史の基礎概念と、作品分析や資料の読解などの基礎的な研究方法を学びます。

必修科目「造形学演習」(Ⅰ・Ⅱ)では、美学美術史研究室の専任教員全員が指導にあたり、各教員の専門領域における先端的な研究動向の紹介や、美術館、博物館、修復工房などの見学を実施します。また、この演習では、修士課程と博士後期課程の学生が各自の研究テーマに基づく発表を年に2回ほど行います。修士課程の学生は、修士論文のための研究の進捗状況をここで報告し、教員と学生全員が参加するディスカッションを通じて、発表内容に関する助言や示唆を受けます。

本コースの学生は、これらの科目の履修と並行して、自身が設定したテーマの研究に取り組みます。指導教員をはじめ複数の教員から個別の指導を受け、また「造形学演習」での発表によって進捗状況を報告しながら研究を進め、修士課程の学修の成果となる修士論文を完成します。

ディプロマ・ポリシー

以下の目標に達したと認められる学生に、修士の学位を与えます。

- 造形芸術に関する広範な知識を持ち、美学・美術史研究の基礎的な方法を習得している。
- 研究対象とする美術作品の観察・分析と、関連資料や先行研究の的確な理解に基づいて、論理的な考察を行うことができる。
- 自ら研究テーマを設定して、学術的な方法による調査研究を行い、独創性のある成果を導くことができる。
- 調査研究によって得られた新しい知見を学術論文として提示するための論述能力と表現力を身につけている。

美学美術史コース

時間割

	1 時限 (9:00～10:30)	2 時限 (10:40～12:10)	3 時限 (13:20～14:50)	4 時限 (15:00～16:30)	5 時限 (16:40～18:10)
月			※西洋美術史研究 (北澤)	※美学芸術学研究 (沢山)	
火		※東洋美術史研究 (奥)	☆現代芸術研究 (村上) ※現代建築論 (岡山)	☆日本美術史研究 (玉蟲)	※近現代美術史演習 (村上)
水	◎造形学演習			※工芸史演習 (木田)	
木		※東洋美術史演習 (奥)	※デザイン史研究 (木田)	☆日本近現代美術史研究 (前田)	
金					

☆……各コース共通の選択科目

◎……当該コースの必修科目

※……当該コースの選択必修科目であるが、他のコースの学生も共通選択科目として履修できる。

芸術文化学コース

理念・教育目標

芸術文化学コースでは、社会における芸術文化の多様なあり方や、社会に対するアートやデザインの意義をとらえ、芸術文化の社会での活用について研究・実践・表現等の活動ができる「芸術文化学」の高度な専門性を身に付けることを目指しています。

そのために、アート・デザインを基盤とした上で、芸術文化領域のプランニング・マネジメント・ミュゼオロジーを主軸として、下記の専門領域を中心に、それらを越境する学際的な観点から、理論と実践を通じて領域横断的に学修・研究します。

【主な専門領域（50音順）】

アート・マネジメント、アニメーション、印刷文化、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン、映像デザイン、映像文化、エディトリアル・デザイン、絵画・立体造形、鑑賞教育、近現代美術、キュレーション、空間芸術、空間デザイン、グラフィック・デザイン、視覚文化、装丁、タイポグラフィ、地域文化、デザイン史、デザイン方法論、展示デザイン、美術館教育、美術教育、美術史、文化史、批評、表象文化、プロジェクト・デザイン&マネジメント、ポップカルチャー、編集、メディアの批評的実践

【芸術文化学】

人々が作品の創造や鑑賞などの行為によって心身の充実を追求する「芸術」と、精神的・身体的活動を通じて確立し、継承、変化させ続けてきた「文化」、その「芸術」と「文化」を社会にどのように活かすのかについて、領域横断的かつ実践的に研究する学問領域。

アドミッション・ポリシー

探求すべき自己の研究テーマと、芸術文化に関する基礎的な専門性、社会に対する多様な関心を持ち、主体的な行動力によって専門性を高め研究を推進しようとする意欲のある志願者を求めます。

主に、芸術文化領域において実践と理論の両面を重視する、学術研究者、学芸員・キュレーター（教育普及担当者・エデュケーターを含む）、教育者、批評家、出版編集者、プロデューサー・ディレクター、コンサルタント、起業家、企業・行政・NPOスタッフ、アーティスト・デザイナー・クリエイターなど、修了後に芸術文化を社会で活かせる担い手を希望する人材を歓迎します。

カリキュラム・ポリシー

本コースのカリキュラムでは、まず、芸術文化の現代の社会における多面的な状況と課題や可能性について、歴史的な観点を踏まえて把握するとともに、プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーおよび芸術文化研究の多様な実践事例と手法の知見を深めることを目指します。その上で、調査・考察と論文執筆のための専門的な研究方法について学び、加えて、定期的な研究プレゼンテーションによって社会発信の意識を獲得します。

1年次は、前期・後期で、「芸術文化学演習Ⅰ」と「芸術文化学特論Ⅰ」で、幅広く多様な芸術文化の社会活用について講義・演習によって学ぶとともに、後期の「芸術文化学演習Ⅰ」では、テキスト講読・論文執筆演習を実施してプレ修士論文提出により研究のための知識と方法論を学びます。2年次は、「芸術文化学特論Ⅱ」でより専門的な芸術文化の社会活用の事例研究を講義で学び、「芸術文化学特論Ⅱ」で各自の研究指導を演習で行って、研究成果を文字数40,000字以上の修士論文にまとめます。また、修了展で展示するための概要パネルも作成することで、効果的な発信の手法を実践的に身につけます。

ディプロマ・ポリシー

本コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーの複合的な方法論と、芸術文化についての広範な知見をもとにした、芸術文化の社会活用に対する高い批評性を持った視点を獲得している。
- 芸術文化領域における学際的な観点と、理論・実践の両面を重視した越境的な方法によって、芸術文化の社会との関係性を踏まえた課題意識に立脚した、独自性のある研究と論理的な論文執筆を遂行できる。
- 自己の研究成果の社会的な意義を客観的に把握して、適切な発信と実践への活用を実現するための知識・能力を身につけている。

理念・教育目標

芸術文化政策コースでは、社会における芸術文化の多様なあり方や、社会に対するアートやデザインの意義をとらえ、芸術文化の社会での活用について研究・実践・表現等の活動ができる「芸術文化学」の高度な専門性を身に付けることを目指しています。

そのために、アート・デザインを基盤とした上で、芸術文化領域のプランニング・マネジメント・ミュゼオロジーを主軸として、下記の専門領域を中心に、それらを越境する学際的な観点から、理論と実践を通じて領域横断的に学修・研究します。

【主な専門領域 (50 音順)】

アート・マネジメント、アニメーション、印刷文化、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン、映像デザイン、映像文化、エディトリアル・デザイン、絵画・立体造形、鑑賞教育、近現代美術、キュレーション、空間芸術、空間デザイン、グラフィック・デザイン、視覚文化、装丁、タイポグラフィ、地域文化、デザイン史、デザイン方法論、展示デザイン、美術館教育、美術教育、美術史、文化史、批評、表象文化、プロジェクト・デザイン&マネジメント、ポップカルチャー、編集、メディアの批評的実践

【芸術文化学】

人々が作品の創造や鑑賞などの行為によって心身の充実を追求する「芸術」と、精神的・身体的活動を通じて確立し、継承、変化させ続けてきた「文化」、その「芸術」と「文化」を社会にどのように活かすのかについて、領域横断的かつ実践的に研究する学問領域。

アドミッション・ポリシー

探求すべき自己の研究テーマと、芸術文化に関する基礎的な専門性、社会に対する多様な関心を持ち、主体的な行動力によって専門性を高め研究を推進しようとする意欲のある志願者を求めます。

主に、芸術文化領域において実践と理論の両面を重視する、学術研究者、学芸員・キュレーター（教育普及担当者・エデュケーターを含む）、教育者、批評家、出版編集者、プロデューサー・ディレクター、コンサルタント、起業家、企業・行政・NPO スタッフ、アーティスト・デザイナー・クリエイターなど、修了後に芸術文化を社会で活かせる担い手を希望する人材を歓迎します。

カリキュラム・ポリシー

本コースのカリキュラムでは、まず、芸術文化の現代の社会における多面的な状況と課題や可能性について、歴史的な観点を踏まえて把握するとともに、プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーおよび芸術文化研究の多様な実践事例と手法の知見を深めることを目指します。その上で、調査・考察と論文執筆のための専門的な研究方法について学び、加えて、定期的な研究プレゼンテーションによって社会発信の意識を獲得します。

1 年次は、前期・後期で、「芸術文化政策演習Ⅰ」と「芸術文化政策特論Ⅰ」で、幅広く多様な芸術文化の社会活用について講義・演習によって学ぶとともに、後期の「芸術文化政策演習Ⅰ」では、テキスト講読・論文執筆演習を実施してブレ修士論文提出により研究のための知識と方法論を学びます。2 年次は、「芸術文化政策特論Ⅱ」でより専門的な芸術文化の社会活用の事例研究を講義で学び、「芸術文化政策演習Ⅱ」で各自の研究指導を演習で行って、研究成果を文字数 40,000 字以上の修士論文にまとめます。また、修了展で展示するための概要パネルも作成することで、効果的な発信の手法を実践的に身につけます。

ディプロマ・ポリシー

本コースでは以下のような学生に学位を与え、修了認定をします。

- プランニング・マネジメント・ミュゼオロジーの複合的な方法論と、芸術文化についての広範な知見をもとにした、芸術文化の社会活用に対する高い批評性を持った視点を獲得している。
- 芸術文化領域における学際的な観点と、理論・実践の両面を重視した越境的な方法によって、芸術文化の社会との関係性を踏まえた課題意識に立脚した、独自性のある研究と論理的な論文執筆を遂行できる。
- 自己の研究成果の社会的な意義を客観的に把握して、適切な発信と実践への活用を実現するための知識・能力を身につけている。

芸術文化学コース
芸術文化政策コース
造形専門科目教育課程表

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/4~17										オープンキャンパス 6/21 22市ヶ谷			オープンキャンパス 7/12 13鷹の台	前期補講・試験週間 7/16~17		後期修正履修登録 8/8~28 夏季休業 7/24~8/30
1 年		芸術文化学演習Ⅰ(木3・4)																
		[専任教員全員]																
		芸術文化学特論Ⅰ(金4)																
		[本間]																
2 年		芸術文化政策演習Ⅱ																
		[専任教員全員]																
		芸術文化政策特論Ⅱ(月2)																
		[松浦]																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月		
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31
4期				5期					6期			7期										
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35	
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13	
芸術文化学演習Ⅰ(木4)																						
[古賀]																						
芸術文化学特論Ⅰ(月1)																						
[竹丸]																						
芸術文化政策演習Ⅱ																						
[専任教員全員]																						
芸術文化政策特論Ⅱ(金3)																						
[森]																						

●祭典10/24~10/26

デザイン専攻

視覚伝達デザインコース

理念・教育目標

修士課程前期視覚伝達デザインコースはヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン領域における表現、手法、理論において、デザインの高度化への社会の要請に応え、かつ国際的にも活躍しうる人材を育成します。その領域は学部の視覚伝達デザイン領域に含まれるグラフィック、視覚情報、視覚環境系はもとより、デザイン方法論、デザイン史、ソーシャルデザイン、他の学際領域とのコラボレーションによる新たなデザイン領域の開拓等が含まれます。

アドミッション・ポリシー

私達が望む院生の人物像とは、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの分野において、自身の研究テーマあるいは制作活動をより深く詳細に独自の視点で展開し、デザインの今日的なあるいは近未来的な問題解決に取り組もうとしている人。

カリキュラム・ポリシー

大学院教育で視覚伝達デザインコース入学者全員に必須とされているのは

- (1) 全ての視覚的な媒体の分析の基本として視覚記号論を学ぶ。
- (2) ヴィジュアル・コミュニケーション史を前提にして情報に対する創造的なリサーチと分析、編集、統合（視覚的シンタックス）手法を学ぶ。
- (3) 生態学的知覚論と心理学を軸とした学際領域の知見の習得。
- (4) 国際的なデザイン領域を学び、新たなソーシャルデザインの可能性の発見。

共通必修と並行して1年次から専任教員が、入学者の学習目的にあわせて徹底した専門教育を行い、修士論文または修士制作に繋げていきます。必要な場合、副査指導教員として学内外の専門家を招聘することもあります。

ディプロマ・ポリシー

理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの修了単位数を満たし、修了制作・研究が以下の内容を満たしているかを基準に、以下のレベルに達した者に学位を与え、修了認定をします。

- デザインの今日における社会的問題、社会的な要請に対して、高度な意義を持った、論文・制作テーマを展開している。
- デザイン研究対象に対し、独創的な観点、独自性を有した方法論的展開を持った、論文・制作となっていること。

視覚伝達デザインコース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 4/17										オープンキャンパス 6/21 22 市ヶ谷			オープンキャンパス 7/12 13 鷹の台	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/8 30 28 29 夏季休業 7/24 8/8
1 年		視覚伝達デザイン演習Ⅰ (大田・北條)																
		視覚情報論Ⅰ (堀口)																
		修了論文・制作指導 (キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口)																
2 年		視覚伝達デザイン演習Ⅱ (寺山・石塚)																
		視覚情報論Ⅱ (キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田)																
		修了論文・制作指導 (キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口)																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期				6期				7期											
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13		
視覚伝達デザイン演習Ⅰ(大田・北條)																							
視覚情報論Ⅰ(堀口)																							
修了論文・制作指導(キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口)																							
視覚伝達デザイン演習Ⅱ(寺山・石塚)																							
視覚情報論Ⅱ(キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田)																							
修了論文・制作指導(キュー・齋藤・白井・寺山・古堅・石塚・中野・北崎・後藤・大田・沢田・北條・堀口)																							

●祭典 10/24~10/26

工芸工業デザインコース

理念・教育目標

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは、高い独自性を持ち、精度の高い研究・表現を遂行できる学生の育成を目標としています。高い専門性を持った人材として社会で活動していくためにデザイン全般において多様化する考え方の認識を持つこと、作品を構成する理論を構築することはもとより、他には比類のない高い造形性を習得することを重視しています。またインダストリアル、インテリア、クラフトデザインのすべての領域で社会との接点を重視し養成することを目指します。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは高い提案性、造形性を持った製品、空間、アートにまたがる様々なジャンルのデザイナー、作家を養成することを主な目的としています。そのため入学者にはこれまでの制作した作品が十分な内容と質を備えていることに加えて、高い独自性を持ち、造形に真摯に向き合うことができる者、自身の提案・研究に対して時間をかけ熟考できる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは1年次では自身の研究の方向性を定めるための制作、調査、研究を行います。インダストリアルデザインコースでは主に自身のデザインテーマに基づいた既存デザインの研究とその上でのコンセプト立案、インテリアデザインコースでは幅の広い解釈が可能なテーマで前期、後期に複数回の課題制作、クラフトデザインコースでは自身のテーマに基づいた作品制作を通して学んでいきます。

2年次では修了制作に向かって自らのデザイン・作品を確立していくことを目標としています。インダストリアルデザインコースでは造形としての完成度を高め、精度の高い理論構築を目指します。インテリアデザインコースでは自身の作品のテーマの深い掘り下げと造形・素材の実験を重ねながら完成度を高めていきます。クラフトデザインでは社会に還元できるモノ作りの姿勢を探究し、文化を牽引する表現を視野に入れ、作品制作を重く位置付けます。

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科工芸工業デザインコースでは以下の能力を習得した学生に学位を与え、修了認定をします。

- 独自性の高い提案性、デザイナー、表現者としての高い造形性。
- 多様化するデザイン・アートの表現に対して幅広い知識を有し、俯瞰して自身のデザイン・表現がどのような立ち位置にあるのか理解する力。
- 自身のデザイン・表現が自己で完結することなく、社会に対して発信し、関わりを生み出す力。

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2~9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		第1TERM 【方法論の理解とトライアル】 ●研究目的の探究 ●テーマ設定のスタディ ●情報収集と分類・分析—I ●コンセプトメイキング ●主旨内容構築 ●情報収集と分類・分析—II																
2 年		第3TERM 【造形及びデザインングのトライアル】 ●第1TERM、第2TERMの成果物の再確認と軌道修正 ●造形、デザインングの展開とプロセス ●モデル試作—IIによる検証 ●制作開始																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期				6期				7期											
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18（鷹の台キャンパス）		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1（市ヶ谷キャンパス）	卒業式 3／13		
第2TERM 【研究の理論的アプローチと図式のトライアル】																							
●第1TERMのまとめと確認 ●中間プレゼンテーション ●完成形のイメージネーションの構築 ●モデル試作—I による検証 ●講評																							
第4TERM 【造形及びデザインングのまとめ】																							
●制作継続 ●第3TERMの最終まとめ ●表現方法の検討 ●プレゼンテーション方法の検討と作成 ●講評																							

●祭典 10/24~10/26

空間演出デザインコース

理念・教育目標

空間演出デザインコースは、「舞台芸術空間デザイン」、「インテリアデザイン」、「環境メディアデザイン」、「ファッションデザイン」の4つの領域で構成され、当コースは、各々の4つの領域を横断する理念として「造空思考」を掲げます。

造空思考とは、地と図という言葉で表現されるように、作り出されるカタチには、必ずカタチを内包する空間が同時に作り出される、つまり、カタチをつくる「造形」とは、空間をつくる「造空」と同意である。という考えから空間を演出することを思索する思考です。

当コースでは、造形＝モノをつくる、表現するというモノ中心の視座ではなく、造形と空間を同じ意識で考える「造空思考」を基にした表現・手法・理論の研究と実践を教育の目標として定め、修了後、アーティスト、デザイナー、技術者など、「造空思考」の専門家として、世界のあらゆる社会、場所において、独創的な作品、アイディア、指針を提案できる人材、また、各々の領域で後進を育てることが出来る人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

空間演出デザインコースは、以下の人材を求めます。

1. 「造空思考」を深化させるための更なる学修を求めているヒト。
2. 空間演出デザイン4領域いずれかにおいての基本的な表現と技術、知識を習得しているヒト。
3. 他者や異文化に対する国際的な視座を持ち、表現によって諸問題の解決に取り組もうとしているヒト。
4. 独自の学修目標を持ち、領域にとらわれない表現によって諸問題の解決に取り組もうとしているヒト。

カリキュラム・ポリシー

空間演出デザインコースでは、ディプロマポリシーに則り、以下のカリキュラムで構成されています。

1. 2年間にわたり、演習科目である実技と、専門理論科目の講義が開講され、より専門的な教養と造空思考と、高度な表現技術を身につけるためのカリキュラムが編成されています。
2. 演習科目では、学生は4つの領域から個別の研究テーマに則した専門領域を選択することが可能です。
3. 指導教員とのディスカッションにより、論文による研究発表、作品制作による研究発表、いずれかの選択を含む指導計画が策定され、教員との対話により、研究を深めることを重視した指導が行われます。
4. 専門理論科目では、各々の領域の教員、ゲスト講師による専門的な講座(空間演出デザイン特論Ⅰ・Ⅱ)が開講され、領域横断で幅広い教養を身につけ、学修を支援するためのカリキュラムが編成されています。
5. 2年次は、修士修了論文または修士修了制作に繋げるために、研究テーマに即し、専門的に深化した内容の個別指導が継続されます。

ディプロマ・ポリシー

空間演出デザインコースは、以下の能力や学識の修得を学位授与の要件とします。

1. 高度な専門性と深い学識
 - (1) 専門的知識と、調査・研究のための方法・技能を系統立てて身につけている。
2. 教養
 - (1) 芸術全般についての幅広い教養と理論、造空思考を身につけている。
 - (2) 表現者として、(1)を基礎とした批評性を身につけている。
3. 国際性
 - (1) 他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を身につけている。
4. 表現力
 - (1) 調査・研究の成果と自分の知見を構築した総合的な表現を身につけている。
 - (2) 社会と芸術における新たな課題を発見し、制作表現を通して解決の道筋を構想できる。
5. 独自の学修目標
 - (1) 高度な専門性と深い学識、教養、国際性、表現力に基づいて、独自性を備えた制作表現ができる。

空間演出デザインコース

造形専門科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2～9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 4/17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23	前期授業終了 7/16	後期修正履修登録 8/8 30 28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		空間演出デザイン演習Ⅰ																
		○専任																
		空間演出デザイン特論Ⅰ(月2)																
		○専任																
2 年		空間演出デザイン演習Ⅱ																
		○専任																
		空間演出デザイン特論Ⅱ(月3)																
		○専任																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月					
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31			
4期				5期					6期			7期													
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35				
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13		後期補講・試験週間 12／15 20		冬季休業 12／22 1／6		卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)		卒業式 3／13	
空間演出デザイン演習Ⅰ																									
○専任																									
空間演出デザイン特論Ⅰ(月2)																									
○専任																									
空間演出デザイン演習Ⅱ				修了制作																					
○専任				○専任																					
空間演出デザイン特論Ⅱ(月3)																									
○専任																									

●祭典 10/24~10/26

建築コース

理念・教育目標

建築コースは「価値ある空間の創出」を基本理念とし、室内から都市全体、ひいては地球環境に至る人間の活動を支える空間に関して、今日的あるいは普遍的な社会的課題を自ら発見し、実践的に取り組む人材を育成します。

専門的知識を備えながら、自然科学、人文科学、社会科学、芸術学にまたがる幅広く複眼的な視点で物事を捉え総合化していく力を持ち、豊かな感性と高い倫理性を備える人材の育成を目標とします。

アドミッション・ポリシー

- 建築、および環境デザインの領域において幅広い教養と知識を身につけながら、自身の研究テーマについて意識を強く持ち、継続的かつ段階的に展開する能力の高い人。
- 今日の社会的課題を自身の問題としてとらえ、実践的に関わろうとする意欲の高い人。
- 建築、および環境デザインの領域における高度な専門知識・技術習得に意欲の高い人。

カリキュラム・ポリシー

建築コースの研究過程は、自身の研究テーマを着実に段階的に展開・深化させるため、スタジオ制教育（少人数での特論・演習・実習）が中心となります。指導教員によって、分野およびテーマ展開の方向性が異なります。

1年次における客員教授による設計演習は、コース全体で実施される科目で、現代の生活環境を反映した課題が出され、構想から詳細なデザインまで一貫した視点を提示することが求められます。

大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定されます。

ディプロマ・ポリシー

理念・教育目標のもと編成されたカリキュラムの修了単位数を満たし、修了制作・研究のテーマと最終成果が批評に耐えうる内容を持っているかを、以下の視点で指導担当教員全員が評価します。

- 制作・研究のテーマがもつ意義
- テーマを展開する際の高い創造性・独自性
- 制作・研究における高い完成度

上記を満たした学生に学位を与え修了認定をします。

建築コース

専門教育科目教育課程表

修士課程

博士後期課程

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2～9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/10 4/17										オープンキャンパス 6/21 22(市ヶ谷)			オープンキャンパス 7/12 13(鷹の台)	前期補講・試験週間 7/16 17 23		後期修正履修登録 8/28 29 夏季休業 7/24 8/30
1 年		建築デザイン特論Ⅰa														建築設計 インターンシップⅠ		
		建築設計演習Ⅰa 建築デザイン演習Ⅰ																
		建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																
2 年		建築デザイン特論Ⅱa														建築設計 インターンシップⅢ		
		建築設計演習Ⅱ 建築デザイン演習Ⅱ																
		建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																

●オリエンテーション週間 4/2~4/9

9月				10月				11月				12月				2025年1月				2月~3月			
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31	
4期				5期					6期				7期										
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35		
後期授業開始 9／1							芸術祭活動 10／20 11／1							後期授業終了 12／13	後期補講・試験週間 12／15 20	冬季休業 12／22 1／6			卒業制作・修了制作展 1／15 18(鷹の台キャンパス)		卒業制作・修了制作展 1／30 2／1(市ヶ谷キャンパス)	卒業式 3／13	
建築デザイン特論Ⅰb																建築設計 インターン シップⅡ							
建築設計演習Ⅰb 建築デザイン演習Ⅰ																							
建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																							
建築デザイン特論Ⅱb																							
建築設計演習Ⅲ 建築デザイン演習Ⅲ																							
建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																							

●祭典 10/24~10/26

大学院における建築士試験の実務経験について

建築士法改正に伴い平成 21 年度入学の大学院入学者から大学院における建築士免許登録資格の実務経験要件が変わりました。大学院で建築士試験の実務経験を取得する場合は、下記の科目構成を理解し、担当教員と相談の上、計画的に履修すること。

■ 科目構成（建築士試験における実務経験に係る科目）

1. インターンシップ

①学内インターンシップ

建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（高橋スタジオ、布施スタジオ、小西スタジオ、菊地スタジオ、持田スタジオ）

②学外インターンシップ

建築設計インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ

2. インターンシップ関連科目

①演習・実験・実習（8 単位以内）

建築設計演習Ⅰ a、Ⅰ b・Ⅱ・Ⅲ（高橋スタジオ、布施スタジオ、小西スタジオ、菊地スタジオ、持田スタジオ）

②講義科目（8 単位以内）

建築設計特論、建築構法特論、建築設備特論、建築計画特論

■ 実務経験年数と必要単位数

1. 実務経験年数を 1 年とする場合

①建築士試験における実務経験に対応した指定科目を 15 単位以上取得すること

②インターンシップの単位を 4 単位以上取得すること

2. 実務経験年数を 2 年とする場合

①建築士試験における実務経験に対応した指定科目を 30 単位以上取得すること

②インターンシップの単位を 14 単位以上取得すること

基礎デザイン学コース

理念・教育目標

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、デザインの各専門領域、広く造形に通底する問題、あるいはデザイン論、デザイン史、さらに形態や色彩についての諸説やその歴史を、今日の情報・通信をはじめとする技術革新や産業・生活構造に位置づけながら、社会的・人間的・文明的な文脈において研究します。現在顕在化してきている情報やメディアのためのデザイン、社会のためのデザイン、グランドデザインの領域においても上記の視点からさまざまな問題が発見され、新たな研究領域が拓かれつつあります。また、それらの問題に対する理解や解決、批判あるいはデザインの提案に対しては、問題を総合的に捉える思考と方法論が求められています。基礎デザイン学は、社会的・人間的・文明的な文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていく創造的な研究領域であるといえます。

アドミッション・ポリシー

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、教育目標に基づいて、デザインの理解を社会的・人間的・文明的な文脈に広く求め、逆にそれらの文脈の中にデザインの研究・応用領域を拓いていくことができる人材、また日常生活の中にそれを展開しうる人材、デザインばかりでなく、研究の視点によりそれらに貢献しうる人材を求めます。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、2年間を通して、デザイン論特論を必修としています。その特徴は、デザインと美術に通底する造形の問題を歴史的な視点から批判的に検討することと、哲学と科学の方法論を記号論を中心として学ぶことにより総合的な視点を獲得することです。

デザイン理論演習では、専任教員により、以下のような専門的な指導を行います。

- コミュニケーション・デザインの手法
- デザインと科学を架橋する視点からの造形
- 生活におけるデザインの源泉としての「美」や「魅力」の実証的な研究とデザイン
- 表現の生成や構造に関する研究
- 造形（形態と色彩）の水脈を探る思想と理論
- インタラクションに基づくデザイン

ディプロマ・ポリシー

大学院造形研究科修士課程デザイン専攻基礎デザイン学コースでは、カリキュラムポリシーに基づく授業を履修し、以下の内容が修士論文・修士制作に反映されている学生に学位を与え、修了認定をします。

- 研究的視点に基づく制作、あるいは制作の基盤となりうる研究を行うことができる。
- 社会的・人間的・文明的な文脈の中にデザインの研究と応用領域を自ら拓いていくことができる。

基礎デザイン学コース

時間割

		1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
月	前	デザイン理論演習 I e・II e (小林)	デザイン論特論 I (畑)			デザイン理論演習 I b・II b (原)
	後		デザイン論特論 I (原・板東)			
火	前		交換留学生ゼミ (小林・板東)			
	後					
水	前		【通年】 デザイン論特論 II (後藤)	デザイン理論演習 I d (菱川) デザイン理論演習 II d (菱川)	デザイン理論演習 I g・II g (清水)	
	後					
木	前	デザイン理論演習 I a (板東)	デザイン理論演習 II a (板東)			
	後		デザイン理論演習 I f・II f (田中)			
金	前					
	後					
土	前					
	後					

凡例 授業名 (担当教員)

デザイン情報学コース

理念・教育目標

デザイン情報学コースは、多様なデザイン行為やメディア表現を情報学の視座から研究し、生活や社会環境に対する新たな捉え方を提示することを教育理念とします。また、本コースは、研究アプローチによって最適な研究成果を求め、論文執筆もしくは作品制作、またはその複合的な成果も受容し、デザインとその周辺世界を開拓する理論構築とその実践を教育目標とします。

アドミッション・ポリシー

先端的な科学技術文明と生活をつなぐ「汎技術としてのデザイン知」を実社会に活かすために、「様々なメディアに対応する表現方法」「コミュニケーションを軸とした創発的思考」「デザイン・アートにおけるデジタル技術」に関心を持ち意欲的に取り組む素質と目的意識を有する学生を求めています。

カリキュラム・ポリシー

大学院造形科デザイン専攻デザイン情報学コースでは、現代社会のさまざまな事象を情報学の視点から分析し、デザインの思考で再構築し提示できる研究者の養成を目的としています。また、デザインの専門領域がデジタル化によってボーダレスになっている流れを本コースでは「様々なメディアに対応する表現方法」「コミュニケーションを軸とした創発的思考」「デザイン・アートにおけるデジタル技術」の3つの視点で捉え、学生が主体的に研究・制作領域を開拓していくためのカリキュラムで構成しています。大学院2年間を通して「デザイン情報学統合演習Ⅰ・Ⅱ」で、学生自ら研究テーマを設定し、関連する分野の先行研究・事例を調査しながら分析的な思考を養い、修士研究・作品制作を計画・実行していきます。本コースの各専任教員は以下の研究領域を専門としており、その中から選択し指導を受けることができます。

- ・グラフィックデザインを基点としたメディア編集術およびアジアデザイン
- ・創発的なコミュニケーションのデザインとデジタルコンテンツデザイン
- ・コンピュータ関連分野。オペレーティングシステム、ネットワーク関連
- ・Webを基盤とする写真表現（Photography as web-based art）の実践的な研究
- ・デザイン分野における心理学的分析およびデザインリサーチ
- ・手続型コンピュータグラフィックスによる造形表現

ディプロマ・ポリシー

大学院造形科デザイン専攻デザイン情報学コースでは以下の項目に示す能力を習得した学生に学位を与え、修了認定をします。

1. 自己の研究・制作に関連する領域を独自の新規性のある視点で捉え、研究を進めることができる
2. 主体的に論文執筆もしくは作品制作、またはその複合的な成果として具体的に体现し、社会へ向けて発表・発信することができる
3. 現代社会のさまざまな事象を情報学の視点から分析し、デザインの思考で再構築し提示できる

デザイン情報学コース

時間割

期	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期
1 年	デザイン情報学特論Ⅰ A			デザイン情報学特論Ⅰ B			
	デザイン情報学統合演習Ⅰ						
2 年	デザイン情報学特論Ⅱ A			デザイン情報学特論Ⅱ B			
	デザイン情報学統合演習Ⅱ						